
閃く生徒会

ROLAN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

閃く生徒会

【Nコード】

N4971U

【作者名】

ROLAN

【あらすじ】

——私立碧陽学園——

それはある1人の男

否

漢が4人の女の子を——

「まじめに書きなさいよ、杉崎！」

「っち、ダメでしたか…」

あつ、リレー小説第一走者始まります」

(前書き)

どうも初めましての方初めまして
知ってる方、お久しぶりです

短編5作目

全体だと6作目

今回はルシフェルではなくROLANとなっておりますが同一人物
です

この小説は短編小説であると同時に、リレー小説でもあります

他の作品もどうぞ、見てみてください

※詳しくは後書きで

「汗をかくということは、魂を綺麗にするということなのよ!」

会長がいつものように小さな胸を張って何かの本の受け売りを偉そうに語っていた。

「とういうことで今回は運動会の種目決めよ!」

ホワイトボードには『運動会の種目決め』とご丁寧に書かれていた。俺や深夏、会長はやる気があるようだが、残りの二人は知弦さんと真冬ちゃんはどうもやる気なさげだった。

「ううゝ、運動は苦手ですう。」

特に真冬ちゃんとかテンションだだ下がりで机に突っ伏していた。まあ凄いインドア派だし、どうもても運動できないだろうしなあ…

知弦さんもこう熱血ぽいのはイメージ的に合わないだろうし。

「ついにこのときが来たか! 1年で1番熱くなるときが!」

対称的に深夏が熱かった。

「深夏今年は何種目出るつもりなんだ?」

「そりゃ、全部だろ。」

「1位独占する気か!」

こいつに手加減の文字は無いのだろうか。

「冗談だよ、冗談。そもそも全部出ることはできないだろ。」

「そうだよな。」

と胸をなでおろす。

「その代わり天〇一武〇会は絶対1位取るぜ。」

「うちの学校にそんな競技あったっけ!？」

なぜリアルで殴り合いをしなくてはならないのか…。

そんなヒートアップしている深夏をほっておいて、会長にしかしと話かける。

「そういや会長。今回って運動会がテーマではありませんでしたっけ?」

「「?」」

と会長含め他のメンバーも首を傾げる。

俺もなぜだかわからないが、読者がその答えを求めている気がするんだ。

「杉崎の言っていることがよくわからないけど、テーマはちゃんと運

動会だよ。ほれ」

とホワイトボードの『運動会の種目決め』を指すが…なんか違う気がする…。

何か屁理屈っぽいが確かにテーマはテーマだった。

運動会なんだから女子のブルマ見たかったなあ…。

「ブルマ見たかったなあ…」

「心の声が漏れてるよ。それに！ブルマなんて私は履かないんだから！」

他の皆もうんうんとうなづいていた。

くっ、この学校にはブルマがあるのになぜ指定ではないのだ！

毒づいていると真冬ちゃんが会長に詳しく聞いていた。

「でも運動会って毎回変わらないのに今さら決める種目なんてあるのですか？」

「ふっふっふ。なんと今回は生徒会が1種目増やすことに決まったのよ！」

会長は椅子の上に立ち上がり小さな体で胸を張っていた。
おお、まさかこれが一日に二回も見れるとは。

「へえー、それはまた…」

「校長にそう催促したらOKしてもらった。」

「あっさりすぎるー！」

なんでこうも会長の周りの人は甘い人ばかりなのだろうか。
と隣から補足とばかりに知弦さんが話しかけてきた。

「なんか今年はパン食い競争ができないみたいなのよ。だから代わりに新しい競技を考えて欲しいそうよ。」

それを聞いて皆はなるほどと納得していた。
いつも会長少し言葉足りないから…。

「ということでバンバン出していつて！」

そういうと全員がーと考え込んでしまった。

「あれ？みんなどうしたの？」

「毎回思うんだが、やっぱりこういうのも定番になってくるんじゃないか？」

「そうですね。結局無難な競技になるかと。だからあまり出しても突発的なのではないですよ。」

俺や知弦さんも同じ意見だった。

こういう会議だと無駄なの出てきてグダグダになるんだよね…。

そう言われた会長はぷーと顔を膨らませていた。

「えー、つまんないよ。何かこう、キターって感じの競技がいいよ。」

「じゃあ、会長は何かあるんですか？」

「スキー」

「どこに雪があるんですか！？いくら北海道でもこの時期に雪はありませんよ！」

全くもって無茶だった。

「それぐらいの方がいいのよ！」

「じゃあ、会長さん。超能力を使って運動会をしようぜ。」

「嫌よ！なんでとある○術の禁○目録みたいな運動会をしなくちゃいけないのよ！」

「良い案だと思ったんだがなあ……」

深夏はしぶしぶ引き下がった。

てか深夏よ、お前は超能力が使えるのか。使うのは守ぐらいで十分だぜ。

そして今度はあまり乗り気ではなかった真冬ちゃんが案を出してきた。

「じゃあこんなのはとうでしょう。走ってる間に出てくる敵を倒すというのは？」

「いやそれはゲームなので…」

「魔女を倒すんです。」

「無理ゲーきたー！リアルでは不可能！」

俺大絶叫だった。

「僕と契約して魔法少女になってよ（真冬版QB風声）」

「やだよ！」

なんでま○か★マ○カみたいなことしなくちゃならないんだ！

「あれり○カルな○はの方が好きでしたか？」

「そういう問題じゃないよねっ！あっ、でも変身シーンは…」

と皆の視線が冷ややかだった。とても居た堪れない気持ちに…。

「仕方ないですね。違うのでいきますか。」

「そうそう。」

「魔装少女なら大丈夫ですよね？」

「わかってない！」

もちろんこ〇はゾ〇ビで〇か？も却下だった。

「くっ、もう真冬の場合はBLしかないです。」

どこまでも残念な真冬ちゃんの考えだった。特に最後は俺の危機だったし。

「ふふふ、やはり私しか良い案はないわね。」

椎名姉妹の意思が終わると、やはりというべきか知弦さんが不敵な笑みを浮かべて話しかけてきた。

「やはり知弦さんしかいないですね。良い案を期待してます。」

「じゃあ佐藤さんを追いかけるゲームでもしましょうか。」

「リ〇ル〇ごっこじゃないですか！？あれ現実に行くと犯罪ですよ！」

知弦さんに少しでも期待していた俺だが、その気持ちはいとも簡単に粉砕してしまった。

無念…

「じゃあ、英霊同士で戦わせる？法律に引っかからないわよ。」

「聖〇戦争なんてやりません！よく知弦さんが知ってましたね…。そもそも霊なんていないでしょ。」

どこのF○t eだと文句を言っていたら、急に皆の顔が青ざめていた。

「…キー君後ろ。」

「ふっ、そんな手には乗りませんよ。」

と後ろを振り向くとそこには――――

――――通りすがりの霊媒師によって1時間かけて除霊してもらった。

1時間前の出来事は……正直触れたくないのでここに書いておくのは止めておく。

「うう、怖かったよう…。」

と会長は知弦さんの胸にうずくまっていた。
真冬ちゃんや深夏までもが震え上がっていた。

「ふっ、まさか現実でスタンドを見るとはな。」

「まあその表現はあながち間違いじゃないけど…。」

まさか現実で霊を見ようとはな！

「しかしどうします？まだ決まってませんよ？」

確かに。ならばここは1つ俺が…。

「じゃあ、明日1人づつアイデア持ってきて、それでアンケート取りましょう。」

会長が珍しく凄くまともな意見だった。

しかし、

「ちょっと待ってください！俺のターンは！？」

「だってどうせ杉崎エッチな方向にしか走らないでしょ？」

ぐはっ、確かにそうだが、それでもと反論する。

「でも万が一って可能性あるのではないのでしょうか？」

「じゃあ、言ってみなさいよ。」

「ドキドキ美少女だらけの水ぶっかけ騎馬…」

「ハイ、アリガトーゴザイマシター」

「「マシター」」

と他の皆が荷物を片付けて帰ってしまった。

くすん、1学期の頃が懐かしいぜ…。

ちなみに種目は玉入れに決定した。
なんか子供っぽいけど、会長だから仕方ないか。

※そして後日行われた運動会の様子を一部をここに書いておくとする。

「深夏！あいつは化物か！？」

「キャー、アカちゃんが玉入れの玉に当たって倒れた！」

「守、あんたの超能力を使って勝ちなさい！」

「俺の怒りが有頂天っ！！」

「「真冬！真冬！真冬！真冬！！」」

「杉崎先輩さすがです！」

「ふっ、俺の屍を超えていけ……」

「見てくれよ！深n、ぐふぁっ……」

……なんか凄くカオスだった。

主に1年C組と二年B組によって……。

でもそれがこの学校らしさかな。
楽しいしな。

（後書き）

いかがでしたか？

今回は普段三人称でやってる僕ですが、今回は原作を意識したため一人称になっております
つまり杉崎視点ですね

うん、原作と全然できが違いますね
こりゃダメだわWWW

さて今回はリレー小説ということでテーマは『運動会』となっていたのですが：実際の運動会のシーン少ねっ！
つかネタバレすると最後の方は実は付け足したりしてましたしねWWW

うん、あと伏字多すぎW
まあ原作再現ということでWWW（わからないやつあれば感想の返信で答えます）

で前書きに書いたことですが
今回リレー小説ということで他の作者の皆さんが同じ作品同じテーマでやってるわけでございます
ただテーマとかは同じですが、内容は全然違った感じになって面白いことになってると思います

まあ僕はリレーの一発目なのでまだ他の作品は見てませんがたぶん僕よりは断然すばらしいかとWWW

で詳しい日程は

7月の

1日ルシフェル

2日王蠱さん

3日竜王&竜姫さん

4日あっぱっぱーさん

5日那家乃ふゆいさん

となっております

ただ今回共通の名で書いてるので検索時は『ROLAN』でいくと簡単にいけます

そして今回見られた読者の方々他の作者の作品もいただけたらなと思います

もちろん強制はしませんが

では今回はこの辺で

感想、評価、質問、誤字脱字等よろしく願います

P・S

現在僕は『リリなの』の長編小説も書いてますのでそちらの方もよろしく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4971u/>

閃く生徒会

2011年10月8日04時55分発行